婦人と新社會

山田わか主筆

七月號

授乳の精神的價値
道德の源泉としての家庭
合理化と云ふ言葉の意義
軍備撤廢に對する心の準備
有形な溝掃除から
精神的の溝掃除まで
——編輯の後——

昭和五年六月二十三日印刷納本
昭和五年七月一日發行　第百貳拾四號　毎月一回一日發行
東京市　婦人と新社會社　發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

授乳の精神的價値

呑ませ得る乳を胸に持つてゐながら外のことに氣を取られて子供に吸はせない母は、結局、子に對する愛を持つてゐないのだと云はなければならない。

無とんぢやくは、又、無とんぢやくを生むから、母子の間の愛は痩せるばかりでツイには無くなつてしまうかも知れない。

こう云ふことに關して或る詩人は歌つてゐる。

世の中には兩親の愛を知らない子供がゐると同時に子に對する愛を知らない親がある。

そして、親の愛を知らない子供はツイに天國へ歸へることを知らない人間になる。

と。

天國へ歸へると云ふことは眞人間になると云ふ意だと私は解釋します。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

道徳の源泉としての家庭

一

夫婦子供から成る本當に調和ある家庭生活が倫理的價値の源泉であると云ふことは日頃私の力說してゐる處です。

家庭內に於て家族員が造り出すやうな親密な關係、從つて目的の統一は家庭以外の如何なる集團も造り出し得ません。

本當に理想的な家庭は財產と收入を家族員共通の資產として居ります。夫婦が相談して一家の財產や又は收入を共通な目的のために使用し、後には其れを子供に讓らうとして一つにまとめて置きます。

實に、それが倫理的價値の源泉なる家庭であつて、妻の財產云々と云ふことは家族員のうちの夫なり子供なり又は老親なりが利己主義者で橫暴で妻なる人の一家族員としての位置や利益を無視す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る場合を前提とするものです。

ですから、「妻の財産及び收入を別にして置かうとすることは本當の意味の家庭生活の自然の狀態にそむいてゐる。妻の財産及び收入を別にして置かうとすることは妻を他の家族員から區分する第一歩であつて、それが生活の他の方面にも延長して行かずには居ない。そして、ツイには家庭と云ふものを單なる性慾關係のものと爲す。即ち、野蠻時代の水準に家庭の意義を低下させ、家庭の道德的基礎を必ず破壞してしまう」と云つてゐる學者があります。

仕事に關しては、一家族が即ち夫、妻、子供等が皆同じ仕事に從事すると云ふことは比較的單純な狀態に於てのみ可能です。たとへば、小農又は小商人の家庭と云ふやうに。そして、さう云ふ一家族全部が同じ仕事をしてゐる家庭から生れて來る道德上の利益は甚だ僅少であるとも云はれて居ります。

男女が同じ仕事に從事することによつて男女の間に存在する生理上心理上の差が磨り消されて、女性の女性らしさが失はれて行き、彼女は仕事の數量上の能率はあげるやうになつても、併し、全部のうちの半分として、即ち、男性の足らぬ部分の補修として貴ばれると云ふことが無くなり、從

つて家庭の道德的關係の深くなる機會が少なくなると云ふのです。

一家を維持する必要上、つまり、夫であり父である男子一人の收入では家計が立たない場合ひに、妻が屋外に仕事を求めることは、健全な家庭の建設と云ふ立場からは決して望ましいものではないが、併し、差し當りの必要上、夫と共同し生活を保證するから、或る程度迄は道德上の目的を達することが出來るとも云はれてゐます。

併し、最近になつてはさう云ふ必要上からではなく、婦人の經濟上の獨立と云ふ名譽心から、又は、快樂をより多く追はうとする動機から職業に附く婦人も少なくありません。又は、特別な能力を持つ婦人が家庭外に自己の活動の範圍を求めようとする場合もあります。

こう云ふ場合ひには、夫婦の利害が全く別々になると云ふ危險があります。夫は妻の仕事に興味が持てず、妻は夫の仕事に無關心になるかも知れません。なぜなら、彼等の別々な仕事が彼等の手一杯であり、又、其處から充分なる滿足を感じてゐて、そして、相互の道德上の助け合ふと云ふ最も重要な家庭の義務が等閑にされるやうになりますから。

要するに、倫理的價値の源泉となる最高に理想的な家庭は、夫婦が全然分業であつて、夫は一家

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の收入のために働き、妻は其の收入を保存し又は使用するために賢しく働き、そして、全家族の共通の目的のために、獲得し得た財力は一つにまとめて置き、夫婦はお互ひに助け合ひ、補修し合ふことであると云はなければなりますまい。

二

とは云へ、妻が大藝術家であつたり、學者であつたりして、そして、社會上經濟上立派に獨立の位置を獲得してゐると云ふやうな場合ひには、もし、夫に充分な理解がありさへすれば、それは普通の夫妻以上に道德的價値を造り出すに相違ありません。けれども、道德的生活の一般の規則を定めようとする時にさう云ふ全く特別な場合を原則とするわけには行かないことも事實です。

且つ、又、普通一般の婦人が行く道、即ち、妻となり母となることが出來なかつた婦人が職業界に又は勞働界に這入つて男子と競爭しようとすることの正當さは充分に認められてあらねばなりません。知力上の仕事に對しても婦人に其の資格なしと極めてしまうことは大きな偏見であるし、又、今頃そんなことを考へてゐる人も無いでせう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

特種な性能を持つ婦人があり、そして、それが女であれ男であれ、持つて生れた性能を發達させ活躍させることは本人のためにも社會のためにも有益でありますから、女性の故に門戸を閉されねばならぬと云ふ處があつてはならないのですが、併し、一般には矢張り女性に適する方面と適しない方面とがあります。

一般男子にくべらて一般女子が生理的に弱いと云ふ事は、これはどうすることも出來ない事實です。こう云ふ不利な方面に職業を求めようとするならば、それは自他共に損失です。これは唯一例に過ぎませんが、普通以上の天分を持つた人に例外な仕事を爲さしむる權利を抗んではならないと同時に、例外な人物を標準として規則を造つてもならない。例外は何處迄も例外として置かねばならないものです。

もし、男子に非常に氣の弱い者があるとしても、そのために男子の兵役を免除することは出來ません。なぜなら、一般男子がさう云ふ風に氣が弱いものと假定することは出來ませんから。それと同じ理由で、非常に氣の強い婦人があるとしても其ために婦人を兵役につかさしむることは出來ません。なぜなら、それは一般婦人の性質ではありませんから。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

國家の非常時に際して國家のために靈感を受けて戰線に立つて働いてゐる婦人があつて、そして彼女が女らしからざる行動を取つてゐるとしても、それに對して非難の聲を投げる人はないでせう。彼女の行動は確かに貴いものであるに相違ありません。それでも、僅かばかりの女の兵士が男の兵士の中に加はつてゐると云ふことは見よいものでもなし、又、利益でも無いでせう。

三

同じ理由で、今日の政治も女性に適した仕事ではありません。國家及び社會をひつかき廻す今日の政治上の爭ひに婦人が加はることは、丁度、鐵砲を肩にして兵役に服することが婦人の性質に反してゐると同じやうに不適當な仕事であります。

と云つて、私は政治と婦人とは無關係だなどと、決して云ふものではありません。國民が政治から無關係にならうとすることは、丁度、自分の體內から心臟を切り離さうとするのと同じく不可能なことであることを私は承知してゐるものです。そして、政治に參加すると云ふ本當の意味は選擧をしたり又はされたり、政談演說會を開いたり、聽きに行つたりすることばかりではなく、毎日の

生活に於て、正直に公平に國民としての義務を遂行する。それが名實共に政治に參加してゐること
だと私は信じて居ります。

今迄は政治教育と云へば、政治學を學ばせたり、其の時々の出來事を研究させたりしてゐたもの
です。けれども、普通選擧法の施行となつたこれからの政治に於ては、さう云ふ形式だけの政治を
知つてゐたゞけでは到底新らしい政權を賢こく運用することは出來ません。形式だけでなく、政治
の本當の精神を了解してゐなければならないのです。

私共は今日政治上の、殊に、都市行政の腐敗を至る處に目擊してゐます。けれども、これから大
きくなる子供に政治の本當の意義、並びに國民としての彼等の責任を了解させて置かなかつたなら
ば、將來に於て現在よりもよき政治を期待することは出來ません。それは木に魚を求むるのと等し
いものでありますから。

私共が將來に於て、よりよき政治を期待しようとするならば、私共は、學者や藝術家や商人やを
養成するやうに眞の政治家を即ち健實な國民を養成することに努力しなければならないのです。つ
まり、家庭と云ふ小團體に於て家族員各々の位置、及び、責任を學ばせ、そして、國家に於ける彼

の位地及び責任を知らしめねばならないのです。

社會は個人及び個人の行爲からなつてゐるものであるから各個人の朝から晩までの行爲が社會的行爲であることを私共婦人は次代に教へなければならない。

さう云ふ日課を經ることによつて、新しい國民は新らしい政治に適合する國民となることが出來る。そして、他人がどんな人物を推奬しようと自分は自分の正しいと信ずる人物を選擧することも出來るし、自分が正當と信ずる提案をすることも出來る。そして、此處に偉大なる政治の力があるのです。

要するに、各家庭内の夫と妻、親と子、及び兄弟姉妹の其の日其の日の生活を政治化することによつて本當の意味の政治が實現するのです。そして、主婦の位置はいはゞ總理大臣の位置でなければならないのです。

ですから、今後の新らしい政治が婦人の力を待つ處は無限に廣いのでありますが、今迄の及び目下の政治上の仕事は婦人の性質には相反するものであります。

四

凡ての方面に働き得るやうには凡ての人間が造られて居りません。殊に、男は男に、女は女に造られてあるのです。もし、自然が人生の或る方面の門戸を女性に閉ざしてゐるとすれば、或る他の方面の門戸が女性のために開かれてあるに相違ありません。

そして、其の門戸の最も貴い且つ重要なる一つは有益な次代を養成すると云ふ仕事です。公的生活を送る男子が民衆感化のためにどんなに努力しても、家庭に於て婦人が未來の生きた代表者即ち子供の上に及ぼす感化力程大きな力はありません。そして、此の感化力の大部分は實に女性の特權であるのです。

知力的並びに精神的文化の範圍は男子と同じく女子にも開かれてあります。物質界に於ける生存競爭のために夫が其の勢力の大部分を消耗しなければならない間に、婦人は家庭にあつて知力的に精神的に修養を積み、そして、それを最も大切な遺産として子供に讓り與へることが出來る、これが女性の特權でなくて何でせう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

知力的文化の範圍は男子と同じく女子のためにも開かれてあると申しますが、併し、此處にも亦男性女性の差があります。男子の頭腦に最も適當であつた科學は今迄の處では例外はあつても一般には女性の範圍ではなかつたと云はれてゐます。傳記を取り扱ふにしても男子は主に一般的に目をくばるに反して女子はむしろ一個人の傳記の方に心を向けて行くと云はれてゐます。婦人の心に最も入り難い學問は論理、數學、法律のやうな純科學であつて、「人肉裁判」のうちのポルシヤですら、彼女の辯論は法律家としての理論と云ふよりは、なさけに出立してゐます。そして、此のなさけなるものは本當の女性のたましいから生れ出づるものです。

五

それはとにかく財産、職業、一國民としての位置、及び、修養に對する興味と云ふことが家族の全部を親密に結び付けて置く要素です。此處に利他主義と犧牲の精神は生れ、そして、それが社會組織の基礎であります。

相愛する夫婦は全然利己的衝動からではなく相互に奉仕することを喜びとします。そして、一寸

目を離せばぢきにいきの根をとめてしまひそうないくぢのない赤子に對する熱愛、それから、からだこそ大きく丈夫になつてもまだ〳〵長い間の兩親の努力と注意を要する子供に對する親の愛は何物にもたとへやうのない程偉大なものです。そして、その偉大なる犠牲に對しての唯一の報酬は、唯、子供の成長を見ることであります。ですから、子供の野蠻性と利己主義とを矯正するには親の偉大なる其の犠牲の精神に理性を加へたもの程有効なものはなく、外界の如何なる勢力も家庭の其の感化力には及ばないのです。

道徳的には野蠻人のやうな婦人でも母として自分の子供に對する時には純粋に自己犠牲の衝動にかられてゐます。妻が夫に無限に勝さつてゐる點は此處です。なぜなら、子に對する自己犠牲の衝動は一般に父よりも母の方が強いものです。從つて、子から受ける喜びは父に於てよりも母に於てより強くあり、より永久的です。

併し、親子の間にさう云ふ純粋な感情の働かない場合ひには、それは其の親子の生活の上に並びに社會に非常に暗いかげを投げるものです。

即ち、家庭の收入の増加を希望して、早くから子供を職業に就かせたり、又は、日々の正しから

ざる親の行爲が子供の心に自己主義の芽を深く植ゑ付けてしまつたりする場合には重大なる道德上の損失を來します。

どうにもこうにも救ふ道の無い全くかたくなゝ心になつてしまつてゐる常習犯人が度々さう云ふ家庭から出てゐます。

比較的生活が順調にある間こそ、其の惡の芽は目立つ程は伸びずに居ても、一朝逆境に立つた時には其の逆境が肥料となつて其の芽はぐん〳〵伸びて行きます。

家庭に於て、既でに、精神的に又は生理的にかたくなになる芽を植ゑ付けられてしまつてゐる人は政府の如何なる施設も宗敎家のどんな努力も最早其の芽を切り取ることは困難です。

罪人を罰したからと云つて、それで國家が道德上の義務を果したと云ふわけのものではなし、とにかく、國民のうちに既でに植ゑ付けられてある、そして、密かに熟しつゝある不道德の黴菌を撲滅するために有効な敎育施設も必要ではありますが、猶、それよりも先きに、そして、より嚴密に留意しなければならぬ點は國民の家庭生活の實狀であります。

合理化と云ふ言葉の意義

最近、合理化と云ふ言葉が盛んに用ひられてゐますが、この言葉はこれを便用する人々によつて其の意義が皆々それ／＼に異つてゐるように思はれます。

一寸、この言葉の語源と云ふようなことに付て調べて見ますと、この言葉は獨逸に始まつてゐます。あの歐洲大戰後、獨逸の商業界は非常な混亂に陷りました。産業合同に對する偏見、永い間續いたマルクの暴落など。そして、やうやく、マルク相場が確立した後、獨逸産業の指導者として前面に現れてゐた人々は、彼等が實行してゐる統一と再建設の一般過程を云ひ現すために新らしい言葉を必要とし、そして、あみ出された言葉が此の合理化であります。

そして、これが英國及び米國に於て、又、我が國に於ても使用されるようになつたのです。

要するに、合理化と云ふことは技術の方法です。無駄を最少限度と爲し、効果を最大限度に現はそうとする技術並びに組織に付て云ふ言葉です。これを云ひ直すと、合理化とは、勞働の科學的組織、原料及び生産物の標準を定めること、運般及び販賣の組織を改良し、單純化することであります。

で、普通の場合ひには、單純化と云ふことが合理化に先き立ちます。そして、單純化と云ふことは、ものに標準を定めること、卽ち、スタンダードを設定することです。たとへば、雨戸を買はふとする場合ひに、建具屋へ行つて『何

番の戸一と云へば、何處で買つても自分の家にピツタリ納まると云ふようなことです。

それから、このスタンダードを設定すると云ふことを何處までも追求して行けば、生產物のスタンダードと消費者の選擇の制限と云ふことになります。たとへば、足袋を買はふとする場合ひに、大きさの標準、品質の標準、かたちの標準が確定してゐれば、選擇がまことに樂ですが、この頃の足袋の大きさの標準はくづれてゐて、同じ十文と云つて買つても店によつて寸法が異つてゐるので私共は非常に不便を感じてゐます。何處の店の何文と云つて買はせなければ家族の足に合はせることが出來ません。寸法のスタンダードがくづれてゐると同時に、品質及びかたちも種々雜多であるので、選擇がまことにめんどうになつてゐます。

故に、生產品の合理化と云ふことは選擇の範圍を狹くすること、卽ち單純化が第一着でなければならないと思つてゐます。

選擇の範圍が狹ければ狹い程便利であると同時に、其の使用の目的も確實に定まつてゐなければなりません。たとへば、新らしい反物を買はふと致します。その用途は確實に定まつてゐなければならない。つまり、用途の範圍は極く狹くなければならないのに反して、古いものの用途の範圍は出來るだけ廣い方が便利です。

云ひかへれば、新らしいものは是非必要と其の用途が定まつてから買ふのが本當であるに反して、古いものはものによつて使用の途を定めるのが最も賢い方法です。これは木綿であるから何にする、これは羅紗であるから何にすると云ふように。そして、これが最も合理化した方法だと考へます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

軍備撤廢に對する心の準

加藤ひさ

數十萬圓はあつたであらうと云はれ　亡夫の遺產をつかの間に所謂戀人の爲に跡方もなくしてしまつて見るもみじめな姿の婦人を見て人は只一樣に自業自得よと嘲笑する。戀は盲目であると云ふ事はそれ程戀の力は强いと云ふ事であつて、それが純であるならそれだけ凡ゆるものを物質は愚か命迄をも捨てゝその戀に踏み込んで行く。そう云ふ時の心持程純であり眞劍であるものはないと思ふ。

が、そう云ふ貴ぶべき愛すべき正直者のある半面にはその正直と純心を利用して物質を取り上げやうとしそれに成功して空うそぶいて居る人間がある。戀をするなら純な戀をなどゝ云つて自分斗りは純がつて居ても生憎相手が純でない爲に吸つて吸つて骨迄しやぶられてをつぽり出されて人の笑はれ者となるのだ。要するに天眞爛慢の度を越して取り返しのつかない立場に陷る。つまり正直過ぎるからである。

×

神に近い正直者を利用する人間は獸に劣る惡むべく、退治すべきものには違ひないけれども、文明の世の中は彼等に都合よく出來上つて居て容易に退治する事は出來ない。そして、そんなものが存在して居る以上男でも女でも心の武裝なしに異性に接して行くことはできないし又人と人との間にも警戒の必要がある。

軍備の撤廢、實にすばらしい言葉である。これを小いさく云へばお隣りとの間の塀を取り去らうと云ふ事である。併し塀は取り去られても心の武裝が取れて居なければ隣りの領分は狹いのに子供は多く、自分の領分は人數の割合に廣くても以前あつた堺線から隣りの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供を入れまいとする。それには塀を取り去つたことが誠に不便である。もと〳〵あつた塀なら左程でなくとも一度びとりこはしたものを又造る事は一層お互の感情を痛めもすれば費用も多くかゝる。

お隣りとの間に塀を置くことはけんくわをさける爲である。だから、けんくわをしないのなら塀の必要はないやうなものであるが、併し完全に心の武装が取れる迄は、つまり隣りに子供が多うすぎて狹すぎれば塀を打ち破つて自分の方へ侵入させ、足りないものがあれば足してやり、又自分の方が足りない時は何んのこだわりもなく先方に取りに行き得るやうに心の準備ができる迄は、やつぱり塀はあつた方が都合がよい。親達はけんくわをするつもりはなくても子供同志で何をするか分らない。

×

暑苦しい塀は實際邪魔だ。私は家の周りの塀をみんな取り拂つて、朝夕近所の人達と笑ひ合ひ助け合ひたい。併し、今の世の中ではそれは非常識であるらしい。實際自分の方でそうしたくても相手の方でしたくなければ仕方がない。お互に相手を利用しやうとか打ちまかしてやらうとか云ふやうな野心さへなければ何んの警戒も要らない。同じ先祖を頂いて同じ土地に隣り合つて住んで居てさへ警戒線の要るやうな世の中で眼色毛色の變つた異國人との間に警戒線を置かないことは即ち軍備を置かないことは實に以て危險である。

けんくわをさへぎる爲の塀をこはす前に平和の心がみなぎつて塀が邪魔で邪魔で仕方がなくなるやうに心の準備が必要である。かりに自分の方にはその準備が出來て居ても相手の方にそれが完全に出來て居るか居ないか分らないから問題である。

爭ひを防ぐ爲にする苦心には進歩は伴はない。併し平和を造る爲にする苦心には進歩が伴ふ。只その根本は個人關係でも國際關係でもお互の間に利益と云ふ棒を立てゝその棒を少しでも自分の方へ引き寄せるか先方の方へ押し寄せるかの問題である。唯それだけのことに各國の代表がロンドンにあつまつた。只その一寸した押し引きの問題が修羅の巷の原因ともなり、パラダイスの基礎ともなる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

有形な溝掃除から精神的の溝掃除迄

四谷區婦人會が今年上半期の仕事は區内の衛生のためにと決議したのは今年一月の幹事會に於てゝありました。昨年區内から傳染病を出した率が東京市十五區のうちで第一位を占めてゐるので、この恥づべき、恐るべき、且つ悲しむべき狀況を何とかして轉換させたいと云ふ希望からです。

で、先づバイキンの發生防止を目的とし、塵芥箱に付ての注意を繪と文字に現はしたビラを各戸に配布、不潔な溝に付ては區長をたづねたり警察署長に進言したり要するに、區役所、警察及び町會の關心を喚起することに婦人會が努力した結果、警察と町會は嚴重に塵芥箱に干渉をしてゐますし、又、特別溝掃除は二十日間に全區に亙る豫定で今月の六日から作業されつゝあります、一定の時間に各家庭から一人づゝ出て溝を浚ひ區役所衛生課の人々が後から汚物をあつめて運搬します。

その外に、各町の主婦達をあつめては月に二回乃至三回づゝ警察衛生課の協力の下に傳染病豫防のために衛生思想の普及に努めてゐます。

×

蓋のない溝を浚ふ仕事は區衛生課の仕事ですが、併し、豫算の關係から四谷區では區内を一巡するに半年かゝる。故に、一年に二回だけしか浚へないことになつてゐます。他の區でも大抵これに等しいと思ふ。その結果、目を覆はなければ通りきれない程不潔な溝、場所によつては、臭氣ぷん〳〵たる汚水が道路面まで溢れてゐる。「これはたまらない」とは誰でも思ふことであつても、さて、そんならどうすると云ふ案は誰も持ち合はさない。

そこへ口火を切つたのが四谷區婦人會であります。婦人會自身が塵芥箱の掃除や、溝浚ひが出來るものではない。要するに、婦人會の仕事は教育運動です、男

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

達や又は一般婦人がどうしてゐゝか解らないでゐる、それを出來るやうにしてやるのが婦人會の重要な仕事の一つだと私は信じてゐます。

×

私は、單に四谷區婦人會を紹介する意味でこれを書いたのではありません、各區、各町、各村の婦人會がかう云ふ氣持ちでそれ／＼の御住所地を善くして行つて頂きたいのが希望です。

これを東京で云つて見るなら、各區に婦人會があり、その婦人會が加盟した聯合婦人會があり、そして、その聯合會の決議によつて各加盟婦人會が活動するやうになれば、東京全市の塵芥箱や溝が一齊に清潔になるばかりでなく、絕へず、瀆職だの、疑獄だのと云ふ蛆を沸かす花柳街と云ふ溝の掃除にも手が伸ばせると思ふのです。

編輯の後

それから、四谷區婦人會では橫一尺縱一尺五寸位ひの金網の屑籠を取りあへず百個こしらへて、街燈の柱に取り付け、「煙草の吸ひがらや紙屑など此の中へお入れ下さい」と書きつけて置きました。

美しく復興した帝都東京の街路に紙屑や吸ひがらが散亂してゐる醜さに我慢出來なかつた東京聯合婦人會は朝日新聞社と共力して婦人清掃隊を街頭に進出せしめ「市民公德運動」を行ひ、その時、四谷婦人會も參加したのですが、街頭に捨てるなと云つても道行く人が持つて居られないもの〻處置に困るのは當然ですから、その人達のために屑籠を取りつけたわけです。

この屑籠が充分に利用されて、街路がよごされて行かないことを切に祈つてゐる次第です。

本誌定價（臨時表）

一册	金十錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	（送料共）

昭和五年六月廿三日印刷納本
昭和五年七月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京市牛込區若松町五四
印刷人　大杉直次郎

東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN